

## 没後40年 鴨居玲展 第2弾

## 写真の中の鴨居玲 —内なるCamoy 外なるCamoy—



鴨居玲《石の花》1979年  
—「写真の中の鴨居玲—内なるCamoy 外なるCamoy—」より—

■ 前田家歴代の肖像画【前田育徳会尊經閣文庫分館】

■ 前田利家とその時代【古美術】

■ 釉下彩のわざ【近現代工芸】

■ 没後50年 南政善【近現代絵画】

■ 優品選【近現代絵画・彫刻】

- 企画展Topics 輪島塗 —漆文化を後世に—
- 展覧会回顧 没後40年 鴨居玲展 —見えないものを描く—
- 令和8年度土曜講座のお知らせ（5～9月分）
- 5月の行事予定
- ミュージアムレポート
- 今年度の目玉

## 企画展(第7～9展示室)

没後40年 鴨居玲展 第2弾

# 写真の中の鴨居玲 ー内なるCamoy 外なるCamoyー

主催：石川県立美術館・北國新聞社 後援：公益財団法人 日動美術財団

4月25日(土)～5月24日(日) 会期中無休

鴨居玲が57歳でこの世を去って10年後の1995年に刊行した写真集『鴨居玲』（富山栄美子撮影）。その収録写真に、未発表の写真を加えた90点を超えるポートレートと、約40点の絵画作品を通して、鴨居玲の世界を深く知ろうとする展覧会です。

鴨居玲は、5年おきに回顧展が開催されるというだけでなく、没後に多くの関連書籍が出版されているという点においても稀有な画家です。多くの人が、人間の本質に迫ろうとした作品群と起伏に富んだ人生に惹かれ、この作家をより深く知りたいと思うのでしょうか。しかし関連する全ての本を読んだとしても、玉石が混交する情報の中で辿り着ける真実は、この画家のほんの一部です。そのような中で鴨居玲の真実を知る手掛かりが、富山栄美子氏の撮った写真です。撮影者と被写体が織りなす信頼の15年間に写された姿は、鑑賞者にとって一つの真実です。

各章の見どころを紹介します。序章では、富山氏と出会う前の、撮影者不詳の青年時代から、安井賞を受賞し画壇に躍り出るまでの姿を、この時代の作品とともに紹介します。第1章では、鴨居玲が「私の村」と呼んだスペインのバルデペーニャスで、住人たちと触れ合う多幸感にあふれた姿を追います。パリ時代から連れ添った愛犬チータとの睦ましい姿も見どころの一つです。第2章は帰国後の神戸に舞台を移し、制作に苦しみながらも新たなステージへと歩みを進める日常の姿を紹介します。

展示室を出る時、鑑賞した皆さんの内に新たな鴨居玲が、像を結んでいることでしょうか。

### 【観覧料】

一般 800円(600円)  
大学生 600円(500円)  
高校生以下無料

※( )内は20名以上の団体

※没後40年展第1弾(2月11日～3月15日当館開催)の割引券に付帯していた割引券を持参された方は( )内の料金で入場できます。

※2階コレクション展観覧料を含む

※身体障害者、精神障害者保健福祉・療育手帳をお持ちの方、またはミライO.Dをご提示の方および付き添いの方1名は観覧無料

### 【関連行事】

◆ギャラリートーク 各回13時30分～(30分程度)

企画展示室

5月3日(日・祝)・10日(日)・17日(日)・24日(日)

13時30分～(30分程度)

※要観覧料、申込不要

◆土曜講座 各回13時30分～

講義室

※聴講無料、申込不要

①5月16日(土)「鴨居玲 人と作品」

日置樹也(当館学芸主任)

②5月23日(土)「鴨居玲 魅惑の理由」

前多武志(当館学芸第一課長)

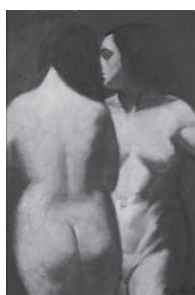
### 【コラボスイーツ】

販売期間

4月25日(土)～5月24日(日)

テイクアウト1,080円/イトイン1,100円(税込)

※第1弾のスイーツも引き続きご提供予定です。あわせてお楽しみください。



鴨居玲《二人》



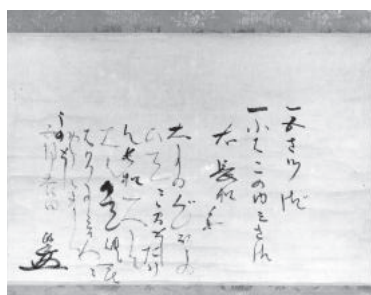
## 前田利家とその時代

4月19日(日)~6月1日(月) 会期中無休

本展示は、激動の戦国時代を駆け抜け、百万石の礎を築いた前田利家(1538~1599)と、その周囲で同時代を生きたライバルや家臣、子女などの肖像画や書状を紹介するものです。

今回の出品作品のうち、前号で挿図を載せた石川県指定文化財《前田利家画像》(個人蔵)が最も知られたものでしょう。上置あけたみに坐し、脇息にもたれた平服姿の肖像で、花文を散らした黒い胴服と黒袴に、黄色味を帯びた木瓜文の小袖を合わせています。襟元には赤地に金襴の小袖をのぞかせ、胴服の裏地も朱という姿は、桃山期らしい大胆なセンスです。前田利家といえは本作品の画像を思い浮かべる方が多いはずですが、今回およそ7年ぶりの公開となります。

また幼少より利家に仕えた高島定吉(1536)



《本多政重書状》大乗寺蔵

1603)と、利家の妹で定吉に嫁した長寿院の夫妻画像(金沢市指定文化財、長久寺蔵)や、末森城の攻防で名高い奥村永福(1541~1624)とその妻松寿院の夫妻画像(石川県指定文化財、永福寺蔵)などを展示予定です。

そのほか《本多正信書状》、《本多政重書状》(いずれも大乗寺蔵)も注目いただきたい作品です。本多正信(1538~1616)は徳川家康の側近として江戸幕府の樹立に尽力した人物で、政重(1580~1647)はその次男であり、加賀本多家の祖となった人です。いずれも直筆の書状で、それぞれの人となりが感じられる貴重な史料です。

## 前田家歴代の肖像画

4月19日(日)~6月1日(月) 会期中無休

前号に引き続き、特集展示「前田家歴代の肖像画」から作品を紹介します。前号は利家画像、今号では三代利常の肖像画を紹介します。

利常の肖像画としてよく知られるのが、小松の那谷寺が所蔵する肖像画ですが、今回はそれとは異なる画像を初公開します。明治以降の模写本になりますが、畳の上に束帯姿で座し、右手には笏を、左手には刀を持っています。穏やかな表情にも見えますが、少し釣り目であることに気づきます。これは利常の顔の特徴を描き出したというよりも、「天神画像を利常画像に見立てた」と考えた方がよいでしょう。

手に笏を持った束帯姿の画像とは、天神画像によくある姿で、怒りの表情を持ち、釣り目で描かれるのが「怒り天神」です。道真は意に反して大宰府に流さ

れたことから、この画像は生まれました。

利常といえは、「前田家の祖は菅原道真である」と明言した藩主です。將軍家光による『寛永系図伝』の作成にあたり、天海僧正より源氏姓を名乗るよう進言されるも拒み、のちに京都の北野天満宮へ華麗な法華経を奉納し、小松に小松天満宮を建立したのはその証です。

つまり、天神画像が利常画像に見立てられたという事は、画像をとおして「前田家」道真の末裔「は定着していったことがうかがえます。

本特集では、久しぶりの公開となる利昌(利家の父)の画像、二代利長、七代宗辰、九代重靖、十代重教、十二代齊広の画像もあわせて紹介します。



《前田利常画像》

# 没後50年 南政善

4月19日(日)~6月1日(月) 会期中無休

戦後作品を制作していきました。インドネシア、インドなど東南アジアの女性と風俗を主眼として、エキゾチシズムに満ちた作品を描き続けますが、南いわくモデル探しに苦労したそうです。本職のモデルではうまくゆかず、新鮮味とおもしろ味のある、描きたくなるような人物を探すのに四苦八苦すると語っています。

画家・南政善(1908~1976)の没後50年を記念する本特集では、当館収蔵の油絵・素描作品約20点により、その画業をご紹介します。前号で紹介したように、戦前から優れた画技を發揮していた南は、戦争という荒波に揉まれながらも、「アジアの女性とそのコスチューム」をテーマに戦後作品を制作していきました。

そんな南の作品には、インド、バリの踊り子、フラメンコ、バレリーナ、舞台監督、元日劇のダンサー、また日本の舞妓や幫間といった、踊りに関わるモチーフが多く認められます。モデルとなった人物たちの研ぎ澄まされた身体や動作から発せられる「絵にな」る雰囲気には南は惹かれたようです。気に入ったモデルを見出したときの感動や嬉しげなコメントが残っており、描かれた舞い踊る姿は、まさに一瞬の動作を切り取ったような鮮やかな印象を与えます。絵筆に託して表現された南の「言葉で表現しきれない感動」と、多様なモチーフにもご注目ください。



南政善《舞台表》

# 釉下彩のわざ

4月19日(日)~6月1日(月) 会期中無休

釉下彩とは、絵付けなどの装飾を施した上から釉薬をかけて焼く陶芸技法です。中国・宋時代の磁州窯における掻き落し、元時代の景德鎮窯で制作された染付(青花)や鉄絵、日本では安土桃山時代の唐津や美濃の鉄絵、江戸時代の染付など、いずれも釉下彩の代表例であり、それぞれ異なる魅力を持っています。本展示では、「古陶磁の技法」「染付」「鉄絵・辰砂」「近代の釉下彩」「釉裏金銀彩」「釉下彩×○○」の6つのパートに分け、多様な釉下彩の表現を紹介していきます。

釉下彩を取り上げ、中国の青花に倣った優れた作品を紹介しています。「鉄絵・辰砂」では、その人生が現在放送中のテレビドラマにとりあげられている北大路魯山人の《鉄絵草花文絵唐津写中皿》は、見事な筆致による鉄絵に、ぜひ注目してください。さらに、「近代の釉下彩」では板谷波山《葆光彩磁草花文壺》、「釉裏金彩・釉裏銀彩」では竹田有恒《萌黄釉裏金彩葛文鉢》を紹介し、比較的新しい釉下彩技法の魅力にも触れます。最後の「釉下彩×○○」では他技法との融合による表現も紹介しています。多彩な釉下彩の世界を堪能し、自分好みの作品を見つけてください。



北大路魯山人《鉄絵草花文絵唐津写中皿》

# 輪島塗 —漆文化を後世に—

6月27日(土)～8月2日(日) 会期中無休

日本を代表する漆芸「輪島塗」。

それは、木地づくりから沈金や蒔絵などの加飾にいたるまで30近くに及ぶ制作工程を、幾人もの職人や作家が卓越した技を繋いで作り上げられる芸術であると言えます。昭和52年、漆芸の分野において団体としては初めて重要無形文化財に指定されました。それは幾重にも積み重ねられた高度な技の集積ゆえになされたものと言えるでしょう。こうしたことを可能としているのは、それぞれの工程に携わる千人近くの職人や作家が、輪島の地において産地という集団を形成し、まとまりをなしているからにほかなりません。

令和6年元旦に発生した大震災とその秋の豪雨は、輪島塗に深刻な打撃を与えました。作業場を失い、道具を失い、そして人が失われ、職人等の離職が

さ求め、黄色系の絵の具で描いた下塗りがほのかに透けることで、画面全体が明るく暖かい印象を持つように表現されています。

彫刻分野から、畝村直久《若い都会の女》をご紹介します。わずかな動きを伴った立ち姿の裸婦像です。ひたむきな観察と量感への意識が見てとれる一方で、その表現はやや硬いといえるでしょうか。この時畝村は23歳。本作によって、第13回帝展で特選を受賞し、彫刻家としての本格的な第一歩となりました。

相次ぎました。

あれから2年余りが経ち、今、輪島では、これまでにない新たなかたちでの「輪島塗再興」の胎動が始まりつつあります。

今回開催の展覧会では、堅牢優美な輪島塗の制作工程に光をあて、幾重にも積み重ねられた高度な技を特徴とする輪島塗のすばらしさを紹介するとともに、そうした技を絶やすことなく後世にも繋いでほしいとの思いを込めたものとなりました。最終章ではこれからを担う中堅や若手の作品を展示し、未来への「技のバトンリレー」の応援メッセージとなることを目指しています。

これまで見てきた視点とは異なる新しい見方で「輪島塗」の世界をご覧いただきたいと思えます。



前大峰《庭の草道沈金彫手管》

# 優品選

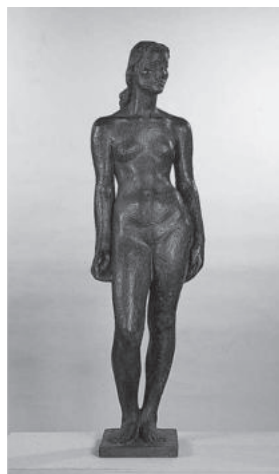
4月19日(日)～6月1日(月) 会期中無休

日本画分野からは仁志出龍司《萌春の道》を紹介し、里山から奥山へと入り行く道でしょうか。木々が芽吹き、鳥のさえずりが聞こえるような春めいた空気を感じさせます。今ではこの季節にこのような風景に出会うと、熊の出没を心配しなければならぬのが残念です。本作は第36回日展で特選となっています。

油彩画分野からは藤本東一良《五月》をご紹介します。窓辺の椅子に腰掛けた女性がこちらを見つめる姿が描かれています。背景の鮮やかな黄色に葡萄色のワンピースが映えます。藤本の油彩画は色の明る

さ求め、黄色系の絵の具で描いた下塗りがほのかに透けることで、画面全体が明るく暖かい印象を持つように表現されています。

彫刻分野から、畝村直久《若い都会の女》をご紹介します。わずかな動きを伴った立ち姿の裸婦像です。ひたむきな観察と量感への意識が見てとれる一方で、その表現はやや硬いといえるでしょうか。この時畝村は23歳。本作によって、第13回帝展で特選を受賞し、彫刻家としての本格的な第一歩となりました。



畝村直久《若い都会の女》

## 第7展示室

# 第15回 石川県日本画会展

5月27日(水)~5月31日(日) 会期中無休 ※入室は17時まで

石川県日本画会はその趣旨を「日本画を志すものが、これまでの既存の概念や会派にとらわれることなく、自由で新しい発想によりそれぞれの日本画制作をすることを目的とし、会員相互の協力によってその研究・模索と石川県内での発表の機会を設け、自己の研鑽に努め、石川県の美術文化の発展に寄与する。」とし、15回目の展示発表を行います。

若手からベテランまで年齢層は幅広く、モチーフも風景や静物、人物・動物や植物、具象や抽象など多岐にわたり、その視点や表現方法は個性豊かです。ぜひ、この機会に石川県内の日本画家の意欲作をご覧ください。

◇入場無料

◇石川県日本画会事務局

金沢市小立野2-40-1 石崎誠和

電話・076-262-1352

## 展覧会回顧

# 没後40年 鴨居玲展 —見えないものを描く—

2月11日(水・祝)~3月15日(日)

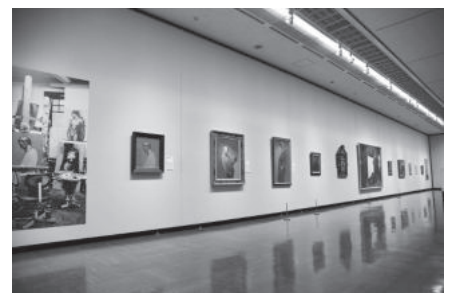
コロナ禍により開会時期を延期した没後35年展から5年。冬場の開催にも関わらず1万人を超える方にご来場をいただきました。来場者は初めて実作を見るような世代から、古くからのファンにいたるまで、実に様々な方たちでした。

今回の展覧会の目玉の一つが、90点以上を一堂に展示した『弥縫録』挿絵でした。陳舜臣氏が解説する中国由来の名言を、鴨居独自の切り口で「絵」にしたもの。これが大変好評でした。「酔っ払い」や「廃兵」など、人生の悲哀を描くイメージとは少々異なる、ユーモアあふれる挿絵の数々を楽しんでいただけたようです。鴨居玲の魅力に両面性ということがあるかと思えます。ただ悲哀だけでなく、そこにはユーモアがあり、ユーモアの奥に悲哀を抱える。挿絵を通して

そんな鴨居の一面を見ることができたのだと思います。

5年ごとに開催してきた鴨居玲展、今回のサブタイトルは「見えないものを描く」。鴨居作品の核心を突くタイトルだったと思います。これまで作品タイトルやイメージから着想していましたが、鴨居作品の本質に迫ろうとした本展は、これからの鴨居玲展を考える上で重要だったと思います。これからも回顧展を続けるのであれば、作る側の我々がアツプデートし、より深く鴨居玲を紹介していかねばと思うのです。

次は「写真の中の鴨居玲」内なるCamoy外なるCamoyです。こちらもご期待ください。



## 第8・9展示室

# 第48回伝統加賀友禅工芸展

5月27日(水)~5月31日(日) 会期中無休

加賀友禅技術保存会は現在、友禅作家のうち正会員8名、参与会員4名が認定されており、加賀友禅の正統な技術保存と後継者育成のため、石川県の無形文化財の指定を受けています。その主旨を推進するため、毎年開催しているのがこの展覧会です。

第32回展より公募制を採用したことで、石川県内在住もしくは在勤者に限りませんが広く一般の方も出品できるようにになりました。加賀友禅における新しい感性と創造的作品の数々をご覧ください。

※毎日13時30分より作品解説があります。

◇入場料 500円 高校生以下無料

◇主催 加賀友禅技術保存会

◇連絡先 金沢市小將町8-8

加賀友禅会館内

伝統加賀友禅工芸展事務局

電話・076-224-5511

# 令和8年度土曜講座のお知らせ(5~9月分)

令和8年度の土曜講座を5月より開講いたします。開催中の展覧会に関連したテーマや、当館学芸員が日ごろ研究しているテーマでおこなうものです。今回は5月~9月分をお知らせいたします。

時間は毎回13時30分より15時まで。事前申し込み不要、聴講無料です。気軽にご参加ください。

※都合により内容を変更、または中止する場合があります。最新情報は当館公式ウェブサイトでご確認ください。

| 月/日   | テーマ                    | 担当    |
|-------|------------------------|-------|
| 5月9日  | 前田利家とその時代 スライドトーク      | 中澤菜見子 |
| 5月16日 | 鴨居玲 人と作品               | 日置 樹也 |
| 5月23日 | 鴨居玲 魅惑の理由              | 前多 武志 |
| 6月13日 | 前田家歴代の肖像画              | 村上 尚子 |
| 7月11日 | スライドトーク(仮)             | 寺川 和子 |
| 7月18日 | みんなでたのしむびじゅつかん スライドトーク | 西 ゆう子 |
| 7月25日 | 1950年代の日本美術            | 前多 武志 |
| 9月5日  | 東洋の美に会う 外国へ渡った工芸品編     | 野口明日香 |

## ミュージアムレポート 大画面8KとVRで迫る！ 「名物大典太」

3月1日(日) 開催

加賀藩前田家に伝わった国宝(太刀 銘光世作(名物大典太))。当館では、所蔵者である(公財)前田育徳会のお許しを得て、「大典太」の高精細VR(仮想現実)モデルを作成しました。その一部は、VRシアターで毎日上映中の「国宝 名物大典太」前田家に伝わる名宝」でご覧いただくことができます。本イベントではVRモデルを、コントローラーで拡大しながら隅々まで堪能しました。2回に分けて、合計16名の方々にご参加いただき、なかには県外からわざわざご来館くださった方も。ご参加くださったみなさま、誠にありがとうございました。



## 5月の行事予定

### ■対話で！作品鑑賞会

毎月第2日曜日、作品についておしゃべりしながらコレクション展示室を楽しめる日「のびのび鑑賞デー」の恒例開催です。学芸員のサポートのもと、参加者同士で対話しながら作品鑑賞を行います。一人で鑑賞する時とは違った鑑賞の楽しさを味わってみませんか。

日時：5月10日(日) 11時~11時30分 \*申込不要

集合場所：2階 コレクション展示室前 定員：10名程度(先着)

料金：要コレクション展観覧料

\*友の会会員のみなさまは、会員証のご提示で無料

### ■特別展「没後40年 鴨居玲展 第2弾 写真の中の鴨居玲

—内なるCamoy 外なるCamoy—関連行事

※各イベント情報は本誌2頁をご参照ください。

### ■土曜講座

5月9日(土)前田利家とその時代 スライドトーク 学芸主任 中澤菜見子

日時：13時30分~15時 会場：講義室

#### 訂正とお詫び

『石川県立美術館だより第504号』3頁の「石川県の文化財」記事において、「恩敬寺」とすべきところ誤って「恩恵寺」と表記しておりました。訂正してお詫び申し上げます。

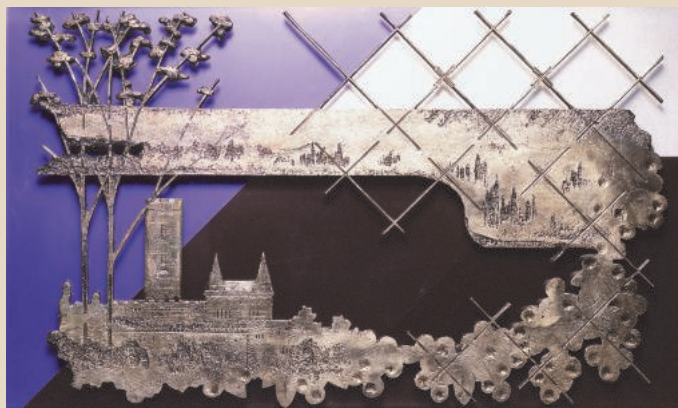
# 今年度の目玉

—令和8年度の石川県立美術館にご注目ください！

大型の展覧会が続いた昨年度に劣らず、今年度も話題の展覧会が目白押しです。春の特別展、没後40年鴨居玲展第2弾「写真の中の鴨居玲—内なるCamoy外なるCamoy—」は既に何度もお伝えをしていますので、その他の当館主催の展覧会についてご紹介しましょう。

まず特別展「輪島塗—漆文化を後世に—」（6月27日～8月2日）をご紹介します。令和6年の能登半島地震とその秋の豪雨により、深刻な打撃を受けた重要無形文化財「輪島塗」。本展ではその堅牢優美な輪島塗の制作工程に光をあて、幾重にも積み重ねられた高度な技を特徴とする輪島塗のすばらしさを紹介するとともに、これからの担う中堅・若手の作品も展示します。

秋には特別展「蓮田修吾郎—世界を拓く窓—」（9月20日～10月25日）を開催します。蓮田修吾郎は金沢出身の金属工芸、彫刻、建築などの分野を横断する創作活動を積極的に行い、日独の国際交流に貢献するなど壮大なスケール感を持った作家です。文化勲章も受賞した蓮田修吾郎の様々な業績をつまびらかにする、満を持しての展覧会となります。



蓮田修吾郎《白銅浮彫「豊穡なるライン」》1983年

そのほかコレクション特別展として、近現代の絵画・彫刻分野から「没後40年 高光一也」、工芸分野から「県工の工芸・デザイン—石川県立工業高等学校創立140周年記念—」（ともに10月30日～12月7日）、古美術分野から「石川の天神画像」（2月11日～3月24日）を開催します。どうぞご期待ください。

## 次回の展覧会

令和8年6月6日(土)  
～6月21日(日)

|                  |            |
|------------------|------------|
| 前田育徳会<br>尊経閣文庫分館 | 第2展示室      |
| 武の装い I           | 古九谷・再興九谷 I |
| 第3～6展示室          |            |
| 第118回<br>日展金沢展   |            |

## ご利用案内

コレクション展観覧料  
一般 370円(290円)  
大学生 290円(230円)  
高校生以下 無料  
※( )内は団体料金  
5月4日は第1月曜日より  
コレクション展観覧無料の日

開館時間  
午前9:30～午後6:00  
カフェ営業時間  
午前10:00～午後6:00

5月は無休で開館していません

石川県立美術館だより  
第511号(毎月発行)  
2026年5月1日発行  
〒920-0963  
金沢市出羽町2番1号  
Tel:076(231)7580  
Fax:076(224)9550  
URL <https://www.ishibi.pref.shikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策交付金を活用して運営しています。

広告代理店が運営する **大人のためのデザインスクール**

01 | オンラインで好きな時間にマイペースで学べます

02 | スキルアップ・副業・趣味に活かせます

キテンスクールの  
オンライン授業なら…

詳しい資料の  
ご請求はこちら

キテンスクール 〒569-0071 大阪府高槻市城北町1丁目14-17-501 tel:072-668-3275 株式会社ウィット